

GW連休の登山事故防止の取り組みについて、緊急アピール!

登山の基本を見直し、慎重な行動を心がけましょう!

2023年4月25日

日本勤労者山岳連盟・遭難対策部

最近の登山をめぐる状況は、コロナ感染の状況も落ち着いてきて、山行活動が活発になっています。低山ハイキングの範囲から、3000m級アルプスの登山活動も増加傾向です。更に登攀や沢登りなどロープを使用する山行も急増しています。すでに、今年の積雪期登山を含めた死亡事故は、3名となり各地方からは重大重症事故の報告も届いています。

4月から5月の連休期間に遭難事故が懸念されます。全国連盟遭難対策部は、以下のことに協力をお願いします。登山の基本技術を見直し慎重な行動を心がけ、自身の登山力量を再度確認して万全の計画を立てて山に出かけてください。

一人ひとり、もう一度安全のために次のチェックポイントを再確認しよう!

- ・下山時の転倒事故が増加し発生しています。日頃からの脚力強化の運動を心がける事と下山時には登りの筋肉疲労が下りに現れる事を意識し、より慎重な行動を心がけてください。
- ・登攀(室内ジム含む)事故が急増しています。グランドフォールも発生しています。基本技術が足りなかった事が大きな原因です。日頃からの相互チェック、目で見て・指さし確認、お互いに声掛けをする等の確認を徹底して下さい。
- ・現在(4月20日)まで3件3名の死亡事故が発生しています。各地方では重大重症事故が(調査中の事故も含)連続して発生しました。墜落・転落・滑落事故による事例が、10件10名。2名の死亡者を含めて何れも骨折や靭帯断裂の重症事故に繋がっています。登攀や沢登りでの登山は、特に計画段階から自身の力量を十分に検討し無理の無いルートを選定して下さい。
- ・この数年、重大事故の多くが「認知のゆがみ」による要因(自身の登山力量を過信したりする)で発生しています。最近の事故事例からは、天候の状況悪化や、道を間違えた場合も「何とかなる」「大丈夫だ」と最悪の状況を想定しない行動「思いこみ」が見受けられます。一步立ち止まって、この判断が正しいのか、安全第一を考えるのであれば、行動の中止や場合によっては引き返すことも必要です。

天候に恵まれ、楽しい登山を行うためにも、安全第一の行動をお願い致します。